

子どもを安心して産み育てる家族を社会全体で支援できる地域社会を築きあうため  
市民協働の子育て支援を求める請願

町田市の待機児童数は平成22年4月396人とされています。10月には657人です。625名が0・1・2歳児です(95%)。東京都全体でも待機児の9割が0・1・2歳児です。

町田市の保育サービス定員指数は24.1%、東京都の平均は32.4%です。

大型マンションがふえ、子育て世代が多い小山・小山ヶ丘地域では保育園不足で1年2年3年たっても保育園に入れない待機児。一子目からこんなに大変だと、もう子どもは産めない、苦勞して就職しても出産で仕事をあきらめた母親は多数。再就職したいけど預ける場所がない、無認可は保育料が高くてパート非常勤では預けたくても預けられない、なぜ認可保育園に入れないのか？認可に希望して、入れず無認可を利用してなぜ補助を受けられないのか？年度の途中ではとても入れないし0歳児で入らなくては認可保育園に入れないから育休をとれない、ワークライフバランスなんて夢のまた夢という悲痛な叫びをどのように聞かれていますか？

また就労支援の保育園ばかりでなく、転居間もない地域で子育てをしている親子や高齢者・学童にベビーカーや歩いていける所に親子広場やどの世代もが交流できるたまり場や学童の放課後の遊び場、地域拠点広場がほしい、孤独な密室子育てや高齢者だけのマンション生活、学童の安心居場所は塾です。乳幼児の虐待や老人のとじこもり、不登校やいじめが突然に起こるのではなく、ゆがんだ形で浮上して来るのは時間の問題になります。

安心して産み育てる期間や子育て支援は就学前だけではなく、学童～青年期まで、地域社会全体で見守り、支え合い、育ちあう途切れのない支援環境が必要です。地域のニーズにあわせ、市民と協働で地域の子育て力に寄与している無認可保育室やNPO・市民団体と連携協働して町田市の子育て力・保育サービス指数を少しでも高め、「子育てに待ったなし」の早急な対応策を図っていただきたく以下の通り請願致します。

請願事項

- 1、0・1・2歳児の待機児として無認可保育室を利用する保護者に保育料軽減の措置を図って下さい。
- 2、0・1・2歳児の待機児や家庭的保育支援の無認可保育室のミニ保育所として位置付け、施設運営補助金を出してください。
- 3、小山・小山ヶ丘地域にNPOと市民協働で作られた、多世代交流広場事業「ひといき広場」に在宅家庭の子育て支援施策の一環事業として委託支援をして下さい。